

2025 年日本国際博覧会
環境影響評価書

【要約書】

令和4年6月

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会

目 次

1. 事業の概要	1
(1) 事業の名称、事業者及び事業の種類	1
(2) 事業の目的及び内容	1
(3) 会場計画	2
① 会場デザインコンセプト	2
② 会場エリア	2
③ 主要な施設	2
(4) (仮称)舞洲駐車場の計画	4
(5) 輸送計画	4
① 鉄道	4
② 自動車	5
③ シャトルバス (主要駅・空港)	5
④ 海路・空路	5
⑤ 車両の走行経路	7
(6) 工事計画	9
① 工事工程	9
② 工事関連車両走行ルート	10
(7) SDGs への貢献	12
① SDGs 達成における本事業の位置づけ	12
② SDGs 達成への貢献が期待される取組み	12
2. 環境影響評価実施内容の概要	14
(1) 環境影響評価項目	14
(2) 環境影響評価の実施を予定している区域	14
(3) 調査の概要	14
(4) 予測方法	15
(5) 評価方法	19
3. 予測及び評価の結果	21
(1) 大気質	21
① 施設の利用による影響	21
② 工事の実施による影響	23
(2) 水質	26
(3) 土壌	26
(4) 騒音	26
① 施設の利用による影響	26
② 工事の実施による影響	29
(5) 振動	30
① 施設の利用による影響	30
② 工事の実施による影響	32
(6) 低周波音	33
(7) 廃棄物・残土	34

① 施設の利用による影響	34
② 工事の実施による影響	35
(8) 地球環境	37
(9) 陸域動物	38
(10) 海域動物	38
(11) 陸域植物	39
(12) 海域植物	39
(13) 陸域生態系	39
① 施設の利用による影響	39
② 工事の実施による影響	39
(14) 海域生態系	40
(15) 景観	40
(16) 自然とのふれあい活動の場	40
① 施設の利用による影響	40
② 工事の実施による影響	40
(17) 夢洲関連事業との複合的な影響	41
4. 環境保全及び創造のための措置	42
(1) 工事計画	42
(2) 交通計画	42
(3) 緑化計画	42
(4) 廃棄物に関する計画	42
(5) 環境保全計画	43
① 大気質	43
② 水質	43
③ 土壌	44
④ 騒音・振動・低周波音	44
⑤ 廃棄物・残土	44
⑥ 地球環境	45
⑦ 動物・植物・生態系	45
⑧ 景観	46
⑨ 自然とのふれあい活動の場	47
(6) 大阪市環境基本計画の推進	47
5. 事後調査	47

1. 事業の概要

(1) 事業の名称、事業者及び事業の種類

名称	2025年日本国際博覧会
事業者	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 会長 十倉雅和
事業の種類	・都市計画法第4条第12項に規定する開発行為を伴う事業（施行区域の面積が50ヘクタール以上であるものに限る。） ・自動車ターミナル法第2条第4項に規定する自動車ターミナルその他の自動車の駐車のための施設の新設の事業（同時に駐車することのできる自動車の台数が1,000台以上である駐車場等を設けるものに限る。）

(2) 事業の目的及び内容

目的	<p>本事業は、2025年に、大阪府大阪市において、国際博覧会条約に基づく国際博覧会を開催するものである。</p> <p>大阪・関西万博のテーマは、『いのち輝く未来社会のデザイン』である。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、人間一人一人が、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を、国際社会が共創していくことを推し進めるものである。</p> <p>言い換えれば、大阪・関西万博は、格差や対立の拡大といった新たな社会課題や、AIやバイオテクノロジー等の科学技術の発展、その結果としての長寿命化といった変化に直面する中で、参加者一人一人に対し、自らにとって「幸福な生き方とは何か」を正面から問う、初めての万博になる。</p> <p>近年、人々の価値観や生き方がますます多様化するとともに、技術革新によって誰もがこれまで想像しえなかった量の情報にアクセスし、やりとりを行うことが可能となった。このような進展を踏まえ、大阪・関西万博では、世界の叡智とベストプラクティスを大阪・関西地域に集約し、多様な価値観を踏まえた上での諸課題の解決策を提示していく。</p>
位置	此花区夢洲（会場予定地）、此花区舞洲（（仮称）舞洲駐車場予定地）
面積	会場予定地：約159ha、（仮称）舞洲駐車場予定地：約31ha（約9,000台想定）
開催期間（予定）	2025年4月13日から2025年10月13日まで
開催時間（予定）	午前9時から午後10時まで
想定入場者数	約2,820万人
会場エリア	パビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールド
施設計画	参加国・企業パビリオン、日本館、自治体館、テーマ館、催事ホール、営業施設（物販及び飲食店舗）、エントランス施設、管理施設 等
その他施設	広場、インフラ整備（電気、ガス、通信、上水、雨水、汚水、空調用冷水）、緑地 等
輸送計画	大阪メトロ中央線（北港テクノポート線）が全体の約41%、空港や主要駅からのシャトルバスが約22%、そのほかの自家用車・団体バス・タクシー等が約37%の分担率を想定

(3) 会場計画

① 会場デザインコンセプト

会場は、四方を海に囲まれたロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」が印象強く感じられるデザインとする。円環状の主動線を設け、主動線につながるように離散的にパビリオンや広場を配置することで、誘致の時から「非中心・離散」の理念を踏襲しつつ「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」を象徴する会場を創出し、無数の異なるものたちが一つの世界を共有しているという感覚を来場者が体感することが出来るような場を目指す。

② 会場エリア

会場全体の面積は約 159ha であり、会場内は大きく 3つのエリア（パビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールド）に区分する。

パビリオンワールドは、会場の中央部に位置し、パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリアである。東と西の2か所にエントランスゲートを設置する。主要施設としては参加国・企業・国際機関のパビリオン、日本館、自治体館、テーマ館、飲食・物販施設、管理施設、各種供給施設がある。

グリーンワールドは、密度の高いパビリオンワールドと対照的に、開放的で緑あふれる空間とし、万博体験の幅を広げる役割を持つ。屋外イベント広場や、ベストプラクティスエリア、先進的なモビリティを体験するエリア等が配置される。西向きに瀬戸内の海を直接望むことができる場所でもあり、飲食・物販施設を適切に配置することによって海の上の万博会場を満喫することができる。なお、ベストプラクティスエリアでは、「TEAM EXPO 2025」プログラムにより集まった「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するための活動等のうち、特に優れた取組について「ベストプラクティス」として位置付け、会場内に設けた本エリアで展示・展開する。

ウォーターワールドは、海の上の万博会場を象徴する場所である。堤防によって作られた内海をさらに大屋根（リング）によって囲い取ることで「海の広場」を作り出す。この三日月状の水辺空間は水上イベントを始めとした親水空間での様々な活動に供される。内海に張り出した大屋根（リング）の上は展望歩廊であり、「海の広場」や会場全体を見下ろせる場所であり、南西方向に広がる瀬戸内の海を見渡せる場所ともなる。

③ 主要な施設

会場内には、参加国・企業パビリオン、テーマ館、催事ホール、エントランス施設、管理施設、インフラ等供給施設、日本館、自治体館、営業施設（物販及び飲食店舗）等の建築物を整備する。このうち、パビリオン（当協会が整備するものを除く）は参加国や企業等の出展者が、日本館は日本政府が、自治体館は自治体が計画し整備する。その他の建築物は当協会が整備する。

会場配置計画に示すとおり、大部分の建築物はパビリオンワールドに、一部の建物はグリーンワールドに整備する。原則として建物は会期終了後に敷地から撤去される予定であり、比較的簡易な仮設構造とする計画である。

会場の修景と良好な環境維持のため、当協会において、ガイドラインを策定することを予定している。



会場配置計画
(2021年8月時点)

- 色別明
- タイプA (国・民間企業)
 - タイプB (国・国際機関)
 - タイプC
 - タイプD
 - 商業施設
 - 日本館、催事施設等
 - サービス/管理施設
 - 休憩所、トイレ
 - 大屋根(リング)
 - 水景類
 - 空地、緑地
- ※ 今後の進捗状況により、図中の配置計画については、変更が生じうる。
- 0m 20m 100m 500m 1km

図 1.1 会場配置計画